

資料2

北九州市生涯学習推進計画  
(令和4年度評価) について



# 北九州市生涯学習推進計画の評価について

## (1) 基本的な考え方

令和3年度に策定した「北九州市生涯学習推進計画《“学びと活動の環”推進プラン》》(以下、現計画という。)に掲載された施策及び事務事業を対象として、「令和4年度」の進捗状況を、策定時に設定した指標等に基づいて、有効性などの視点から点検・評価し、施策及び事務事業の今後の推進に活用する。

## (2) 評価の方法

### ア 評価の実施範囲

【施策】 現計画を構成する3施策

【事務事業】 164事業(再掲事業を除く)

### イ 評価の視点及び表示

#### (ア) 施策ごとの評価

指標の達成状況、モニタリング項目の推移及び施策の実績・成果・有効性、構成事務事業の進捗状況を踏まえ、評価する。

A：大変順調 B：順調 C：やや遅れ D：遅れ

※ 参考：施策の種類

柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり
柱2 「学び」と「活動」による人づくり
柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

#### (イ) 施策の指標評価

計画策定時に3施策ごとに指標及び令和7年度の目標値を設定。年度毎に、目標に向けて設定した参考値に対する達成率に基づき、4段階評価を行う。

A：大変順調 (100%以上) B：順調 (90%以上)

C：やや遅れ (70%以上) D：遅れ (70%未満)

※ 指標については、今後、生涯学習を取り巻く社会状況の変化等が生じた場合は、必要に応じて見直しを行うこととする。

※ 行政評価の評価基準とは異なる。

参考：行政評価の評価基準(成果指標の達成率を基準に評価)

原則として、120%以上「大変順調」、60%以上「順調」、

40%以上「やや遅れ」、40%未満「遅れ」

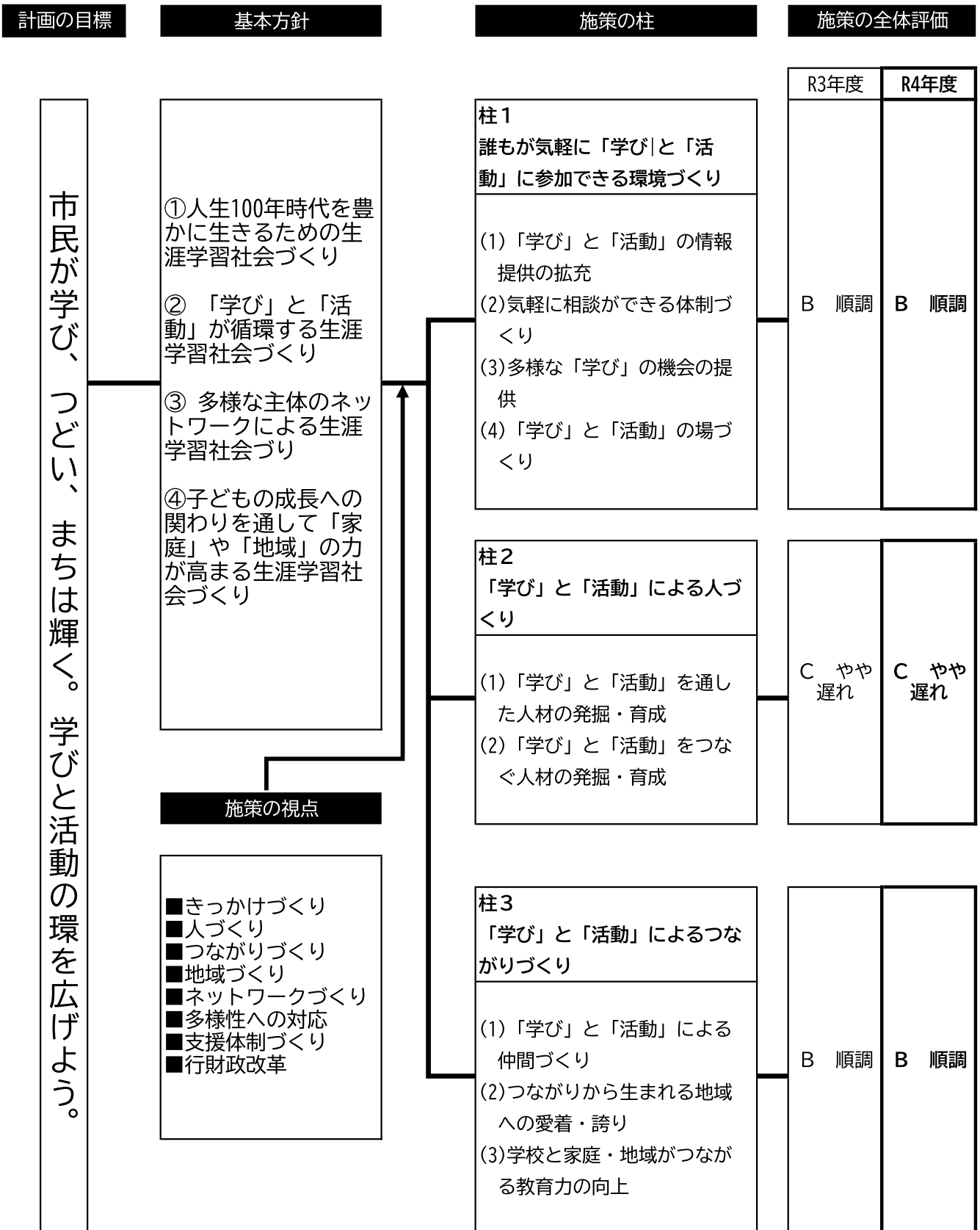
#### (ウ) 事務事業の進捗状況

各事務事業の実施状況、事業の有効性、効率性、前年度実績との比較等を総合的に判断して、次の4段階評価を行う(目標値等は設定していない)。

a：大変順調 b：順調 c：やや遅れ d：遅れ

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、評価できない場合は、評価欄に「-」を記載

北九州市生涯学習推進計画《” 学びと活動の環” 推進プラン》の体系と全体評価



## 施策の柱 1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

### 1 全体評価

令和3年度	令和4年度	
B 順調	B 順調	<p>(1) 指標では、市政モニターアンケートの「生涯学習の情報が取得できている人の割合」が、R4年度は38.4%と前年比6.7ポイント下がり、「過去1年間に学習活動した人の割合」もR元年度から下がっている。</p> <p>(2) しかし、モニタリング項目及び事業評価表の個別の事業を見ると、講座受講者、施設来館者、スポーツ・イベント等参加者は前年より大きく増加しており、コロナ禍からの回復傾向が一層強くなったことがわかる。</p> <p>(3) また、「学習活動に満足している人の割合」は前年から一気に17.9ポイント上昇し、「生涯学習関連施設の利用者数」は前年の約1.5倍となっている。</p> <p>(4) 事業評価表の個別事業については、概ね「大変順調」または「順調」である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の行動制限解除に伴い、学習活動が急激に活発化しており、学習活動に満足している人の割合も大幅に上昇していることから、総体的には「B 順調」とした。ただし、生涯学習に関する情報提供、学びを活動につなげることについては課題として残っており、今後は、より一層、「学び」を深め「活動」につながりやすくなるよう情報発信、人材マッチング施策を強化する。</p>

### 2 指標等

◎指標				現状値	参考					目標
R3 評価	R4 評価	指標		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
A	B	生涯学習の情報が取得できている人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			39.8%	<b>42.3%</b>	44.9%	47.4%	50%
			実績	37.2%	42.2%	45.1%	<b>38.4%</b>			
			達成率			113.3%	<b>90.8%</b>			
C	D	過去1年間に学習活動した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			59.5%	<b>62.1%</b>	64.8%	67.4%	70%
			実績	56.9%	48.9%	45.9%	<b>32.6%</b>			
			達成率			77.1%	<b>52.5%</b>			
C	A	学習活動に満足している人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			89.8%	<b>91.1%</b>	92.4%	93.7%	95%
			実績	88.5%	87.9%	75.5%	<b>93.4%</b>			
			達成率			84.1%	<b>102.5%</b>			
A	A	生涯学習関連施設の利用者数 《各施設所管課集計》	参考値			前年度以上	<b>前年度以上</b>	前年度以上	前年度以上	前年度以上
			実績	14,033 千人	6,238 千人	7,546 千人	<b>11,187 千人</b>	千人	千人	
			達成率			121.0%	<b>148.3%</b>			

A：大変順調（100%以上） B：順調（90%以上）  
C：やや遅れ（70%以上） D：遅れ（70%未満）

◎モニタリング項目

全18項目中

↗ 9項目

↘ 5項目

➡ 4項目

— 0項目

R3 推移	R4 推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
↗	➡	○生涯学習という言葉を知っている人の割合	95.5%	98.5%	<b>98.5%</b>			
↘	↘	○まなびネットひまわりアクセス件数	13,502件	9,610件	<b>8,859件</b>			
↗	↗	○いきがい活動ステーションの利用者数	1,042人	2,438人	<b>5,531人</b>			
↗	↗	○生涯学習総合センター学習相談件数	12件	59件	<b>183件</b>			
↗	↗	○市民カレッジ受講者数	529人	721人	<b>1,115人</b>			
➡	➡	○市民カレッジ受講者の満足度	99.1%	99.0%	<b>98.0%</b>			
↗	↗	○市立図書館（ひまわり文庫を除く）における市民一人当たりの貸出冊数	2.5冊	3.2冊	<b>3.4冊</b>			
↗	↘	○障害者芸術祭作品展の出展数	203品	260品	<b>225品</b>			
➡	↗	○障害者スポーツ教室・障害者スポーツ大会の参加者数	775人	766人	<b>1,293人</b>			
➡	↘	○東部・西部障害者福祉会館で行う障害のある人を対象にした講座の開催回数	73回	72回	<b>70回</b>			
↗	➡	○東部・西部障害者福祉会館で行う障害のある人を対象にした講座の参加人数	402人	610人	<b>646人</b>			
➡	➡	○外国人が日本語や日本の生活習慣を学ぶための地域の日本語教室の開催箇所数	17教室	17教室	<b>17教室</b>			
↗	↗	○生涯学習市民講座のうち「共生のまちづくり」を学習目標とした講座数	107講座	123講座	<b>156講座</b>			
—	↗	○北九州市立大学i-Designコミュニティカレッジ各領域の履修生数		37人	<b>48人</b>			
↘	↘	○「本市は生涯にわたって自由に学び、その成果を活かした活動を行う環境が整っていると感じる」と回答した人の割合	63.3%	59.5%	<b>55.1%</b>			
➡	↗	○人材バンク登録者数	223人	209人	<b>224人</b>			
↗	↗	○人材バンク依頼件数	8件	9件	<b>14人</b>			
↗	↘	○人材マッチング事業実施件数 ※ R4からマッチング希望数ではなく、成立件数を計上することとし、R2、R3年度も成立件数に変更した。	37件	156件	<b>123件</b>			

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	計 画		実 施				評 価 ・ 方 向 性						
					R4年度 予算額 (千円)	R4年度 決算額 (千円)	令和4年度実績・実施状況	活動指標	R3年度 実績値	R4年度 実績値	成果指標	R3年度 実績値	R4年度 実績値	R4年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性	
					令和4年度実績・実施状況	活動指標											R3年度 実績値
(1)「学び」と「活動」の 情報提供の拡充	①「学び」と「活動」の 一元的な情報提供	1	「まなびネットひまわり」(管理運営)	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	「まなびネットひまわり」を活用して、市内の生涯学習に関する学習機会や講師の情報等、様々な情報を一元的に提供し、生涯学習活動の促進を図る。	201	200	関係機関への情報提供の呼びかけや講師登録に対する問い合わせの対応等を行った。	まなびネットひまわりへのアクセス数	9,610 件	8,859 件	過去1年間に生涯学習活動をした割合(生涯学習活動への参加率)	45.9%	32.6%	b:順調	アクセス数はわずかに減少し、市政モニター調査による生涯学習活動をした割合は大幅な低下であった。しかしながら、コロナの影響があるなか、アクセス数はほぼ変わらず生涯学習への関心はあったと考えられるため、「順調」とする。	「まなびネットひまわり」の情報をより活用いただけるよう、様々な講座・講師情報を加え、利用者の増加のための情報発信に努める。
		2	高齢者いきがい活動支援事業	保健福祉局 長寿社会対策課	「目的」 高齢者の社会参加やいきがいづくりを促進するため、高齢者の参加しやすいボランティア・生涯学習情報等に関する情報の収集・提供等を行う。	8,834	8,834	「実績」 平成28年9月より小倉北区魚町へ移転した、いきがい活動ステーションにて実施 令和4年度利用者数:5,531人	利用者数	2,438人	5,531人	利用者アンケート満足度	100.0%	100.0%	b:順調	令和3年度に比べ利用者数が増加しており、アンケート結果(満足度)も良好であったため「順調」と判断した。	引き続き利用の状況等を見ながら、アンケートを活用するなどし、高齢者の社会貢献やいきがいづくりの推進を行う。
	②多様な媒体による 情報提供	3	生涯学習総合センターだより「まいなび21」の発行	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	「目的」 生涯学習総合センター主催事業や生涯学習関連情報等を掲載した市民向けの情報紙を発行する。	288	292	年4回、各3,500部発行	発行部数	14,000部	14,000部	年間発行回数	4回	4回	a:大変 順調	発行部数・回数については、特に問題ないことから昨年度と同様としたい。内容については、読者ニーズを踏まえ、他の生涯学習施設の紹介などを引き続き行う。 市民カレッジ等の受講生へも積極的に配布し、情報発信に努めたい。	
(2)気軽に相談できる 体制づくり	①「学び」の相談 体制づくり	4	生涯学習総合センター学習相談事業	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	「目的」 施設ボランティアの協力のもと、学習相談コーナーを定期的に開設し、生涯学習に関する様々な相談にきめ細かく対応する。	予算措置 なし	予算措置 なし	相談対応件数:183件	学習相談事業の相談件数(延べ相談者数)	59件	183件	相談者の相談内容に対する問題解決率	100.0%	100.0%	a:大変 順調	施設ボランティア(学びサポーター)による学習相談を週2回実施しており、市民カレッジ等の講座案内や、地域活動希望者への相談等に対応した。 また、「パソコンなんでも相談」を、隔週実施から毎週実施に変更したことから相談件数が増加した。	施設ボランティアが、相談者に的確なアドバイスができるよう、引き続き、市内の講座開設状況等情報収集に努める。
		5	年長者研修大学校(周知学舎・穴生学舎)	保健福祉局 長寿社会対策課	「目的」 高齢者に対して教養、健康、レクリエーション等の研修の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくり、健康づくり及び社会活動の促進を図る。修了生の組織でボランティア活動を実施する。	144,718	141,143	「実績」 令和4年度受講者数:785人	年間コース実施数 年間コース受講者数	30件 818人	30件 785人	総合的な満足度	96.0%	97.4%	b:順調	令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ禍以前に比べて受講者数が少ない状況ではあるが、アンケートによる総合評価が良好であったため「順調」と判断した。	地域活動の拠点として、ボランティア活動の充実に努めるなど、高齢者の生きがいづくりや健康づくりを促進し、地域活動を担う高齢者の人材育成を図る。
(3)多様な「学び」の機会 の提供	①「学び」のきっかけ づくり	6	生涯学習市民講座の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	「目的」 市民の学習活動を支援し、一人一人が健康で心豊かな生活を送り、個人のいきがいづくりや生活に必要な知識、技術を習得するだけでなく、地域課題や社会的課題を解決するため、各市民センター等で幅広い分野にわたる講座を実施する。	9,784	9,136	市民講座数 901件 市民講座参加者数 85,836人	生涯学習市民講座数	835件	901件	生涯学習市民講座参加者数	56,844 人	85,836 人	a:大変 順調	集合形式の講座の再開や、ウェブの活用など感染拡大防止対策を講じた実施の結果、前年度より講座数は増加し、成果指標である参加者数も前年度比150%以上の増加率であった。 以上のことから「大変順調」と判断。	より地域の特色を生かした講座、地域課題解決に向けた講座となるよう市民センター館長研修の充実を図り、多くの方に多様な学習機会を提供していく。 また、オンラインツールや動画配信を活用した講座を実施できるよう、市民センター館長・職員等の研修を充実させる。
		7	ESD推進事業	環境局 環境学習課	「目的」 持続可能な社会の実現に向けて、産学官民の多様な主体から成る「北九州ESD協議会」や誰もが利用できるコミュニティスペースである「北九州まなびとESDステーション」をプラットフォームとして、環境はもとより人権・平和など幅広い視野から総合的に取り組む人材の育成を図る。 【ESD=持続可能な開発のための教育】	20,179	19,619	新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントや会議等が対面では実施できないことがあった。そのような中で、オンラインを活用するなどの実施方法を工夫することで、概ね予定通り事業を実施することができた。	活動団体登録数	85団体	93団体	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合 ※令和元年度より成果指標を「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合に変更	80.2%	83.4%	b:順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントや対面の会議が実施できないこともあったが、そのような中で、オンラインでの会議や講演会を積極的に行うなど、新たな方法での事業を実施したことから、「順調」と判断した。	「北九州ESDアクションプラン2021~2025」で定められているチーム活動推進事業を中心に、コロナ禍で十分に行えなかった事業を積極的に実施する。 また、見直しの検討を重ねてきた協議会の新たな運営体制を発足させて、会員の主体的な活動促進と次世代の育成を主として、協議会のさらなる活性化を図りたい。
		8	北九州市民カレッジ事業	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	「目的」 市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。	4,438 (八幡西総合含む)	4,013 (八幡西総合含む)	前期26講座、後期29講座実施(高等教育機関連携コース含む)	講座数	36件	55件	受講者数 受講者の満足度	721人 99.0%	1,115人 98.0%	a:大変 順調	募集定員を感染防止のため少なく設定したが、昨年度よりコロナによる中止もなく、開講できた。また、満足度も引き続き高い水準を維持できている。	新規受講生獲得に向けた新たな講座の検討を積極的に行う。また、地域力アップセミナーなど人材育成につながる講座において、現代の課題に即した内容へのアップデートを行っていく。
9	北九州ひとみらいプレイスの充実	市民文化スポーツ局 八幡西生涯学習総合センター	「目的」 各施設の特徴や専門性を生かし、子供から高齢者まで、年齢、国籍、文化、障害の有無を問わず、若者成長の支援、あらゆる世代の学びの充実、さまざまな団体の活動支援、すべての市民の交流促進に取り組み、幅広い人づくりを支援する。	3,693	2,578	1 ひとづくり支援事業 (1)グローバル人材育成事業 パネル展を除き、4事業実施。参加者計444名 (2)若者支援事業 参加者7名 2 連携事業「気ままにセミナー」 10講座実施。 受講者数256名(うちオンライン87名) 3 にぎわい創出事業「ひとみらい交流マンス」 期間 令和4年10月1日~令和4年11月13日 参加者 33,463名(関連事業も含める)	北九州ひとみらいプレイス11施設の集客人数 ひとみらい交流ウィーク集客状況(にぎわい創出事業)	43万人 4万1千人	70万人 3万3千人	北九州ひとみらいプレイスで実施する講座、セミナー等の満足度	99.0%	96.5%	b:順調	新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少していた11施設の集客人数は、回復傾向にある。 これまでの「ひとみらい交流ウィーク」を「ひとみらい交流マンス」として事業期間を拡大し、各施設で集中して事業実施を行うとともに、新たに構成施設が共同で行う事業にも着手し、集客状況は前年度と比べ減少したものの、施設間の連携強化を図り新たなにぎわい創出に繋げることができた。 さらに、講座・セミナー等の満足度については、高水準を維持していることから「順調」と判断。	ひとみらいプレイス構成施設間の連携強化を図り、多様な層の参加・交流促進に繋がる事業を検討していく。 また、未だ低い水準にとどまるひとみらいプレイスの認知度向上に努める。		

具体的な施策	番号	計 画				実 施				評 価 ・ 方 向 性						
		事務事業	所管課	概要(目的)	R4年度 予算額 (千円)	R4年度 決算額 (千円)	令和4年度実績・実施状況	活動指標	R3年度	R4年度	成果指標	R3年度	R4年度	R4年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
									実績値	実績値		実績値	実績値			
(続き) ①「学び」のきっかけづくり	10	デジタル活用講座	デジタル市役所推進室 デジタル市役所推進課	<<目的>> 社会のデジタル化が進捗する一方、2020年市民調査では約25%の市民がインターネットを利用していない状況であり、インターネット未利用理由で上位の「機器操作が難しい」等の課題に対応するため、高齢者等、スマートフォン等の操作に不慣れな方がスマートフォン等の操作にチャレンジするための第一歩となるような講座を市民センターと連携して実施する。	8,000	7,042	市民センターにて、スマートフォンの操作に不慣れな方を対象に、スマートフォンの基本操作等を体験する「デジタル活用講座」を実施。(30館×講座1回の計30回実施。受講者は計312名)	講座の実施	25回	30回	市民のインターネット利用率 (5年に1回の調査) ※直近の調査はR2年度で75.0%			a:大変 順調	高齢者等、スマートフォンの操作に不慣れな方を対象に講座及び相談会を実施し、大多数から満足を得られたため大変順調とする。 【R4年度デジタル活用講座 アンケート結果】 満足度:満足 45% (次点:まあ満足 42%) おすすめ度:勧めたい 68% (次点:強く勧めたい 19%) 今後の受講:また受けたい 97% 理解度:だいたいわかった 46% (次点:よくわかった 32%)	R5年度は、国の補助金を活用し、大幅に拡充してデジタル活用講座を実施する。(R5年度は9月から140箇所(全市民センター、自治公民館等)にて実施予定) 今後も継続的に講座を実施し、市民のデジタル活用へのきっかけづくりに努めたい。
②ライフステージや多様性に応じた学習機会の提供・充実	11	育児サークル・フリースペース活動への支援	子ども家庭局 子育て支援課	<<目的>> 乳幼児の親同士が交流を通じて、自主的な活動を行えるよう育児サークルを支援する。また、自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援する。	5,729	5,610	育児サークル及びフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援した。 <<実績>> ・補助金交付団体:110件	子育てに関わる団体等への補助件数	97件	110件	市内で活動する育児サークル等の団体数	440 団体	437 団体	b:順調	子育てに関わる団体への補助件数は13件増加した。前年度とほぼ同数の団体で活動が継続されていることから、「順調」と判断した。	子育てに関わる団体の自主的活動を活発化させるため、補助件数の増加等、支援内容について継続的に検討していく。
	12	親子ふれあいルーム運営事業	子ども家庭局 子育て支援課	<<目的>> 子育て中の親と子が気軽に集い、相互に交流を図る場である親子ふれあいルームを運営し、施設の充実や利用日の拡大、相談対応の充実などの機能強化を図る。また、市民センターをはじめ、子育て支援団体、育児サークル等と連携し、ネットワーク化を図るなど、地域における子育て支援に取り組む。	38,660	36,910	親子ふれあいルームを運営し、施設の充実や利用日の拡大、相談対応の充実などの機能強化を図った。また、市民センターをはじめ、子育て支援団体等と連携し、ネットワーク化を図り、地域における子育て支援に取り組んだ。 <<実績>> ・箇所数 区役所等7箇所、児童館9箇所 ・利用者数(乳幼児数):21,134人	親子ふれあいルーム実施箇所数	16ヶ所	16ヶ所	親子ふれあいルーム利用者数(乳幼児数)	20,764人	21,134人	a:大変 順調	利用者数(乳幼児数)が前年度比101.8%となり、乳幼児を持つ保護者の交流や、子育てへの不安軽減に寄与していることから、「大変順調」と判断した。	親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修の実施など更なる取り組みを検討していく。
	13	青少年体験活動の啓発・広報の推進	子ども家庭局 青少年課	<<目的>> 市や市民団体・NPO団体等が実施している青少年体験活動についての情報発信を行う。	12,509 の一部	8,252 の一部	①キッズチャレンジの発行(年2回) ②青少年育成シニアリーダー会議の開催(年11回)	青少年育成シニアリーダー会議の開催回数	11回	11回	青少年育成シニアリーダー会議主催のイベント等実施回数	1回	1回	a:大変 順調	体験活動情報誌「キッズチャレンジ2022」では夏休み及び冬休み期間に特化した各団体のイベント情報を掲載し、大変好評いただいた。 青少年育成シニアリーダー会議については、青少年健全育成の環境づくりに向けた協議を進め、コロナ禍明けで親子イベントを開催することが出来た。	次世代を担う青少年が社会とのかかわりを自覚しながら、自己を確立・向上していけるよう、青少年育成団体等と一層の連携を図り、青少年の体験活動の機会や場の創出に努める。
	14	北九州市立大学 i-Designコミュニティカレッジ	企画調整局 総務課	<<目的>> 当カレッジのためにデザインされた必修科目と、大学の多彩な科目の中から学生と一緒に学べる科目等を選択できるプログラムを提供し、社会人の学び直しを支援する。	-	-	令和4年度は、領域「社会人のためのデータサイエンス基礎」を新たに開設し、従来の領域「学問と人生」、「地域創生」、「こころの科学」、「多様な世界との対話、」と合わせて5つの領域を開講した。	i-Designコミュニティカレッジの実施	履修生数 37名	履修生数 48名				a:大変 順調	一定数の履修生数を得ており、令和4年度の修了生の満足度は100.0%と高い評価を得ているため。	引き続き、「学問と人生」、「地域創生」、「こころの科学」、「多様な世界との対話」、「社会人のためのデータサイエンス基礎」の5つの領域を開講する。また、次年度へ向けて、広報活動を幅広く行い、より多くの履修生受入れを目指す。
	15	社会参加講座開催事業 (障害者福祉会館の指定管理事業の一部)	保健福祉局 障害福祉企画課	<<目的>> 障害のある人の日常生活に役立つ知識の習得や、社会参加の促進を図る。	障害者福祉会館運営費 174,184 の一部	障害者福祉会館運営費 174,989 の一部	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会議室等の利用人数を制限していたが、講座の一部をオンラインで開催する等の工夫により、昨年度より多くの参加者を集めている。	講座開催回数  参加者数	72回  610人	70回  646人	講座開催回数  参加者数	72回  610人	70回  646人	b:順調	アンケート結果では、講座内容について「良い」「だいたい良い」と回答した利用者が96.9%と高い水準を維持しているため「順調」と判断した。	引き続き、障害のある人の自立の援助や生きがいを高める講座を開催していく。また、アンケート等を元に講座内容を精査し、ニーズに基づいた講座を充実させることにより、更なる参加者数の増加を図る。
	16	日本語教育体制整備事業	企画調整局 国際政策課	<<目的>> 日本語でのコミュニケーションが困難な外国人市民のために、日本語教室を運営するとともに、市内で日本語学習支援を行っているボランティアグループ(13団体)との連携や、助成金の交付、広報協力、スキルアップ研修などを実施することで、日本人と外国人の相互理解および学習機会の充実を図る。	文化芸術振興費補助金 10,000 の一部等	文化芸術振興費補助金 10,000 の一部等	(公財)北九州国際交流協会において学習者のニーズに合わせた4つの日本語教室を運営するとともに、市内で日本語教室を運営している13のボランティア教室・団体に対する助成金の交付や意見交換会等を実施した。 また、日本語教室の空白地域である門司区で新たな日本語教室立ち上げに向けた支援を行うなど、日本語教育の推進に多角的に取り組んだ。	日本語教育に関する事業の実施  ※(公財)北九州国際交流協会が主催する日本語教室数	4教室	4教室	(公財)北九州国際交流協会が主催する日本語教室開催実績  延べ参加人数	252回  1,648人	221回  1,464人	a:大変 順調	学習者の利便性を第一に考え、教室への移動などが不要となるオンラインを活用した授業を実施し、かつ、学習者の年齢や習熟度に合わせた質の高い教室運営を継続している。	(公財)北九州国際交流協会主催の日本語教室の円滑な運営に加え、地域の日本語教室への運営支援を継続する。 また、学習者に対してさらに効果的な日本語教育を提供するため、教室の再編成について検討する。
	17	障害者スポーツ教室等開催事業	保健福祉局 障害福祉企画課	<<目的>> 障害のある人がスポーツを通じて体力の維持・増強、機能回復を図る。	2,360	2,360	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第19回交流ポッチャ大会は中止となったが、感染症対策を行いながら、水泳教室等を実施した。	障害者スポーツ教室等開催回数	46回	74回	障害者スポーツ教室等参加者数	766人	1,138人	b:順調	障害者スポーツ教室等は、当初予定していた回数通りに開催することは出来なかった。しかし、昨年度と比較すると、開催回数も参加者数も大幅に増加させることが出来た。	関係団体と連携を図るとともに、事業の周知や参加者数の拡大を図る。
	18	北九州市障害者芸術祭	保健福祉局 障害福祉企画課	<<目的>> 障害のある人の芸術・文化活動への参加を通じて、本人の生きがいや自信を創出し、社会参加を推進するため、北九州市障害者芸術祭(ステージイベント、作品展)を開催する。	2,360	2,360	ステージプログラムでは、昨年度に引き続きふれあいフェスタ2022と合同開催で実施した。作品展では6日間で411名の来場者があった。	障害者芸術祭の開催	有	有	障害者芸術祭 出展数  障害者芸術祭 来場者数	260点  1,300人	225点  1,300人	b:順調	新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、ステージイベントを実施した。 作品展の出展数は大きく増加した前年度と比較すると減少したが、例年同様の出展数があったため。	関係団体との連携を図り、事業の周知を充実するとともに、関連するイベントとの一体的な開催等の連携を継続し、魅力的なイベント内容とすることにより、参加者数・来場者数の拡大を図る。



具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	計 画		実 施				評 価 ・ 方 向 性					
					R4年度 予算額 (千円)	R4年度 決算額 (千円)	令和4年度実績・実施状況	活動指標	R3年度	R4年度	成果指標	R3年度	R4年度	R4年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
					実績値	実績値			実績値	実績値						
③現代的・社会的な課題の解決に向けた学習機会の提供・充実	(続き) ②ライフステージや多様性に応じた学習機会の提供・充実	19	【新規】 新・多様性が輝く地域へ「心のバリアフリー」事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課	「目的」 地域全体で「心のバリア」をなくし、相互理解を深めていくため、障害のある人や国籍・言語の違う人などと住民が共生した地域づくりを目指す。	1,000	905	実施数 14館 参加者数 5,421人(延べ数)				参加者数		5,421人	b:順調	当初予定していた実施館数を達成し、一定の参加者を見込めたので順調と判断。 事業実施にあたっての協力団体のさらなる掘り起こしや、事業をきっかけに、地域における障害のある方や外国人住民等と交流・相互理解を深める場、機会の継続的な創出につなげていく必要がある。
	20	人権市民講座	教育委員会 企画調整課	「目的」 人権問題に関する市民の正しい理解と認識を深めるため、市民センターにおいて人権学習を推進する。	11,074の一部	7,553の一部	市民センターで実施	人権市民講座 実施回数	257回	356回	人権市民講座 参加者数	6,266人	10,530人	c:やや遅れ	新型コロナウイルスの影響も少なく、開催数はコロナ前の目標値を上回ったが、参加者数は目標値を下回っているためやや遅れとした。 市民が親しみやすい人権市民講座等を開催できるように、題材や学習内容・方法など工夫を行う。	
	21	企業や地域等でのワーク・ライフ・バランスの取り組み支援	総務局 女性の輝く社会推進室	「目的」 企業等の事業者に対して、仕事と子育て等との両立への理解促進や働きやすい職場環境づくりを働きかける。 また、毎年11月をワーク・ライフ・バランス推進月間とし、その意義や必要性を企業等事業者や市民に周知する。	7,475	3,959	北九州市女性活躍・ワークライフバランス表彰受賞者数(累計):86社(人) ワーク・ライフ・バランス推進に関する企業へのアドバイザー等の派遣:26回	北九州市女性活躍・ワークライフバランス表彰受賞者数(累積)	83社(人)	86社(人)	仕事と生活の調和が 図られていると 感じる人の割合	66.3%	62.7%	b:順調	女性活躍・ワークライフバランス表彰では令和4年度に新たに3社(人)が受賞し、累計が86社(人)となった。 また、女性活躍・ワークライフバランスの推進に関する企業へのアドバイザー派遣や各種セミナーの開催等による支援について、申込件数は令和3年度とほぼ同程度(R3:30回-R4:26回)であり、市内企業の先進的な取組事例をホームページで紹介するなど、方法を工夫しながら実施することができた。 加えて、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合は、令和元年度に近い水準を維持しているため、「順調」と判断。 企業については、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合が今後さらに上昇していくよう、引き続き、各種支援を通じて意識改革を一層推進していく。 また、事業の実施にあたっては、企業のニーズを踏まえ、効率的・効果的な事業実施を検討していく。	
	22	読み聞かせ・読書ボランティア養成講座	教育委員会 子ども図書館	「目的」 読書を通して、子どもの豊かな感性を育てるため、読み聞かせなどが行えるボランティアの育成を図る。	318	251	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため講座の受講者数を制限したものの、4講座(11回)実施した。	読み聞かせボランティア養成講座の 開催数	2回	4回	読み聞かせボランティア養成講座の 受講者数	28人	73人	b:順調	新型コロナウイルス感染症対策のため講座の受講者数を制限したものの、講座はほぼ例年通りの回数を実施でき、受講者数も大きく増加したため。 読書をする子どもを増やすには、大人の協力は欠かせない。子どもが読書活動に親しみ、読書の大切さを知ることができるよう、力強く支える大人を増やし、市立図書館や学校など市内で活動している読み聞かせボランティアなど読書に係るボランティアの育成、連携支援に引き続き取り組む。	
	23	・DIG(住民参加型災害図上訓練) ・HUG(避難所運営ゲーム)	危機管理室 危機管理課	「目的」 ・DIG(ディグ)は、参加者が自分たちの住むまちの地図を囲み、書き込みを行いながら議論することで、わがまちに起こりうる災害像をより具体的にイメージできる訓練。 ・HUG(ハグ)は、避難所に見立てた模造紙や避難者に見立てたカードなどを活用し、参加者がプレイヤーとなり、避難所で起こる様々な出来事に対してゲーム感覚で避難所の運営を学ぶ訓練。	955	497	・DIG 9回実施し、606人が実施した。 ・HUG 12回実施し、558人が実施した。	訓練参加人数	DIG 0人	DIG 606人	訓練参加人数	DIG 0人	DIG 606人	b:順調	令和4年度の目標設定で挙げた、訓練参加人数550人を達成しているため。 市のホームページの更新やSNSでの広報等を通じ、DIG及びHUGの実施について周知を図っている。 また、出前講演等の機会を捉えて、引き続き広く市民に参加を呼び掛ける。	
24	学びから活動への仕組みづくり	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	「目的」 行政や大学など様々な学習の場で、学んだ人にアンケートを行い、「学んだ成果を活動に活かしたい」と答えた人を、市民センターや市民活動推進課、ボランティア・市民活動センターを通じて、活動を行っている団体(自治会・まちづくり協議会、NPO、ボランティア等)へつなぐ事業を実施する。	150	0	令和4年度は生涯学習に関する講座の受講者にアンケートを実施し、活動希望者を活動の場へとつなぐことができた。				活動希望者のうち、 活動の場へつなぐ ことができた割合	19.6%	25.5%	b:順調	ITを活用する等アンケート実施方法を改善した結果、マッチングの精度が上がり、効率的に実施できるようになった。 より多くの活動希望者を活動の場へ繋ぐことができるよう、今年度は、より多くの講座受講者にアプローチするため、近隣教育機関等へのアンケート協力の働きかけを行う。		
④生涯学習実施機関のネットワークによる学習機会の充実	25	北九州ひとみらいプレイスの充実(再掲)	市民文化スポーツ局 八幡西生涯学習総合センター	「目的」 各施設の特徴や専門性を生かし、子供から高齢者まで、年齢、国籍、文化、障害の有無を問わず、若者成長の支援、あらゆる世代の学びの充実、さまざまな団体の活動支援、すべての市民の交流促進に取り組む、幅広い人づくりを支援する。	3,693	2,578	1 ひとづくり支援事業 (1)グローバル人材育成事業 パネル展を除き、4事業実施。参加者計444名 (2)若者支援事業 参加者7名 2 連携事業「気ままにセミナー」 10講座実施。 受講者数256名(うちオンライン87名) 3 にぎわい創出事業「ひとみらい交流マンス」 期間 令和4年10月1日～令和4年11月13日 参加者 33,463名(関連事業も含める)	北九州ひとみらい プレイス11施設の 集客人数	43万人	70万人	北九州ひとみらい プレイスで実施する 講座、セミナー等の 満足度	99.0%	96.5%	b:順調	新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少していた11施設の集客人数は、回復傾向にある。 これまでの「ひとみらい交流ウィーク」を「ひとみらい交流マンス」として事業期間を拡大し、各施設で集中して事業実施を行うとともに、新たに構成施設が共同で行う事業にも着手し、集客状況は前年度と比べ減少したものの、施設間の連携強化を図り新たににぎわい創出に繋げることができた。 さらに、講座・セミナー等の満足度については、高水準を維持していることから「順調」と判断。 ひとみらいプレイス構成施設間の連携強化を図り、多様な層の参加・交流促進に繋がる事業を検討していく。 また、未だ低い水準にとどまるひとみらいプレイスの認知度向上に努める。	

具体的な施策	番号	計 画				実 施						評 価 ・ 方 向 性				
		事務事業	所管課	概要(目的)	R4年度 予算額 (千円)	R4年度 決算額 (千円)	令和4年度実績・実施状況	活動指標	R3年度	R4年度	成果指標	R3年度	R4年度	R4年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
									実績値	実績値		実績値	実績値			
①学んだ成果を生かす仕組み	26	「まなびネットひまわり」(講師登録及び依頼)	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	「まなびネットひまわり」の機能である講師登録及び、講師を依頼したい人と登録講師とのマッチングをすることで「学び」と「活動」の循環を目指す。	17	0	令和4年度新規人材バンク登録者数:15件 令和4年度人材バンク依頼件数:14件	まなびネットひまわりへのアクセス数	9,610件	8,859件	過去1年間に生涯学習活動をした割合(生涯学習活動への参加率)	45.9%	32.6%	b:順調	過去1年間に生涯学習活動をした割合(生涯学習活動への参加率)は大幅に減少したが、これはコロナウイルスの影響と考え、人材バンクの講師登録(R3:11件⇒R4:15件)と人材バンク依頼件数(R3:9件⇒R4:14件)が前年から増加している点から、順調と判断する。	講師登録について充実を図るとともに、様々な機会を捉えて周知する。
	27	市民センタークラブ	市民文化スポーツ局 生涯学習課	「目的」 生涯学習市民講座終了後、さらに継続的な学習を希望する人々で作られたクラブや自主的なサークル活動からスタートしたクラブ活動を支援、促進する。	予算措置なし	予算措置なし	クラブ登録数 4,148(R5 4.1現在)				地域社会の発展に向けた貢献	100.0%	100.0%	b:順調	市民センタークラブ数は、部員の高齢化等により減少しているものの、全市民センターで活動ができています。	部員の高齢化等により、クラブ数も減少している中、クラブ加入を促進するためのPRを支援する。また、生涯学習市民講座等を受講された方々がその後、クラブとして発足するよう事業の充実を図る。
②生涯学習関連施設の整備	28	美術館企画展充実事業	市民文化スポーツ局 美術館	「目的」 美術館において、多彩で魅力ある展覧会を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。	118,519	111,927	「ミュージアム・ツアー」事業と連携し、来館者の年齢層や個人から家族への来館単位の変化に合わせた企画展を実施し、より効果的な広報PRを行うなど、来館者数の増加につなげることができた。	展覧会開催回数	65回	83回	美術館入館者数	126,264人	187,097人	a:大変順調	展覧会開催回数、美術館入館者数ともに前年度を上回る実績となったため、大変順調と評価。	今後も「ミュージアム・ツアー」事業と連携しながら、来館者の変化に合わせた企画展を研究・実施するとともに、効果的なPRを行ない、来館者数の増加につなげたい。
	29	博物館企画展・特別展充実事業	市民文化スポーツ局 自然史・歴史博物館	「目的」 入館者の増加につながる、魅力ある大型特別展を開催し、さらなる賑わいの創出を図る。	63,570	59,074	特別展5回、企画展21回開催した。	企画展・特別展入館者数	74,309人	156,568人	博物館総入館者数	241,736人	402,819人	b:順調	令和4年度は開館20周年を迎え、展示内容のリニューアル等を実施し、さらに魅力ある博物館としてPRした。また、新型コロナウイルス感染症の制限緩和もあり、入館者もコロナ以前の水準まで戻りつつあるため「順調」と判断した。	引き続き新規の来館者や団体客、リピーターを増やせるよう、魅力ある特別展や企画展を検討するとともに、市内外に情報を発信していくことにより、来館者の増加を目指す。
	30	【新規】 平和のまちミュージアムの運営	総務局 平和のまちミュージアム事務局	「目的」 戦争被害、戦時下の人々の暮らし等に関する資料の収集、保存、展示等を行うこと等により、戦争の悲惨さを伝え、もって市民が平和の大切さや命の尊さを考えるきっかけとする。	42,000	37,616	ミュージアムの円滑な運営に努め、様々な企画展やイベントの開催、近隣施設と連携した取組み等を実施して、当館の普及・啓発、来場促進を図った。	利用者数		31,991人	利用者数		31,991人	b:順調	市内の小学6年生が近隣の議会棟や小倉城、松本清張記念館等とミュージアムを併せて周遊できる「平和のまちスタディツアー」や、他館と連携した企画展の実施、戦跡等を巡るバスツアーやデジタルスタンプラリーなど、来場促進に向けた様々な取組が実施できていることから、「順調」と判断。	平和のまちミュージアムへの更なる来館者増を図るため、企画展・イベントを始めとする集客力のある魅力的な、様々な取組について検討を行う。
	31	【新規】 北九州市科学館スペースLABO運営経費	子ども家庭局 科学館	「目的」 北九州市科学館スペースLABOを魅力ある施設として運営することにより、将来を担う技術系人材の育成を図るとともに、修学旅行生や観光客を呼び込むことで、東田地区全体の賑わいに寄与するもの。	567,578	483,056	常設展示室(サイエンスLABO):219,561人 プラネタリウム:200,382人 特別企画展:52,454人 分館、教育普及事業:37,666人	入館者数		510,063人	入館者数		510,063人	b:順調	科学館(スペースLABO)において、常設展示室やプラネタリウム、教育普及事業を中心に、約51万人の方に来館いただき、目標を上回ったため、「順調」と判断。	本市の将来を担う技術系人材の育成や、東田地区全体の賑わいに寄与するために、常設展及びプラネタリウムの安定的な運営に加え、教育普及講座の更なる充実を図る。 また、平日の集客やリピーターの確保のため、教育旅行の誘致やSNSを活用した広報、魅力的な特別企画展を開催する。
	32	【新規】 折尾まちづくり記念館の運営	市民文化スポーツ局 地域振興課	「目的」 折尾のまちづくりの歴史に関する情報の収集及び提供を行うとともに、住民等の交流及び自主的活動の場を提供することにより、折尾のまちづくりを推進する。	17,510	13,997	【指定管理】 開館して初年度であるが、当施設の利用者数や満足度は高く、地域の方々に多く活用されている。 初年度の指定管理業務ということもあり事業計画が不十分で、試行錯誤で運営していることが多かったが、数多くのイベントを実施でき、利用促進に繋がった。	イベント開催回数		56回	入館者数		107,583人	C:やや遅れ	イベント内容としては、市民センターと同様の取組が多くみられ、当施設の設置目的に沿った事業展開の充実が求められるため。	施設の設置目的への理解度を深めるとともに、体系的で計画的な事業の展開が必要である。 また、折尾のまちづくりに資する施設になるように、まちづくりの視点で、地域との連携をもっと強化することが求められる。 なお、令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策で利用制限があったが、今後は利用制限がなくなる中で本施設のさらなる利用向上が見込まれる。

## 施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

### 1 全体評価

令和3年度	令和4年度	
C やや遅れ	C やや遅れ	<p>(1) 指標では、「『学習成果を地域活動やボランティア活動など社会に貢献したい』と回答した人の割合」はR2年度から増加し続け、「ボランティア登録人数」も前年度より増加し、意欲の高まりが行動に反映されている。</p> <p>(2) その反面、「地域活動に参加した人の割合」は29.2%とR元年度の42.1%から減少し続けている。</p> <p>(3) モニタリング項目を見ると、地域防災の担い手や子育てサポーター、ボランティア関係などは回復基調にある一方、停滞している項目もある。</p> <p>(4) 事業評価表の個別事業の進捗については、回復が遅れているものがややある。</p> <p>学習成果で社会に貢献したいという意欲は高まっており、地域防災や子育て、ボランティア関係など、一定の方面では学習や活動は前年度と同等か拡大の傾向にある。しかし、地域活動や地域活動人材育成の講座参加者はまだ減少傾向にあり、回復に転じていない。そのため、総体的には「C やや遅れ」とした。</p> <p>今後は、より一層、活動の場の創出と人材育成に努めるとともに、地域で様々な取組を行う各種地域団体等に対し、各種支援事業などの地域ニーズに応じた施策を展開するなど、地域活動への参加拡大に努めたい。</p>

### 2 指標等

#### ◎指標

R3 評価	R4 評価	指標		現状値		参考				目標
				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
C	A	ボランティア登録人数 《所管課集計》	参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上
			実績	22,858	19,497	17,075	18,320			
			達成率			87.6%	107.3%			
D	D	地域活動に参加した人の割合 《市民アンケート調査》	参考値			46.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50%
			実績	42.1%	33.9%	32.0%	29.2%			
			達成率			69.6%	58.4%			
A	A	「学習成果を地域活動やボランティア活動など社会に貢献したい」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			87.7%	89.5%	91.4%	93.2%	95%
			実績	85.9%	81.7%	93.5%	95.6%			
			達成率			106.6%	106.8%			
C	C	「地域活動のリーダーやボランティアが増加していると感じる」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			34.5%	38.4%	42.2%	46.1%	50%
			実績	30.6%	37.5%	30.1%	32.4%			
			達成率			87.2%	84.4%			

A : 大変順調 (100%以上)    B : 順調 (90%以上)  
 C : やや遅れ (70%以上)    D : 遅れ (70%未満)

◎モニタリング項目

全12項目中

↗ 6項目

↘ 4項目

➡ 2項目

— 0項目

R3 推移	R4 推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
↘	↗	○ボランティア大学校の研修の受講者数	2,174人	1,781人	<b>1,853人</b>			
↗	↗	○地域防災の新たな担い手を育成した人数	75人	104人	<b>130人</b>			
—	↘	○新しく健康づくり推進員になった人数	コロナにより養成講座中止	99人	<b>28人</b>			
↗	➡	○子育てサポーター登録者数	1,425人	1,508人	<b>1,493人</b>			
↗	➡	○子育てサポーターリーダー配置割合	68.5%	73.0%	<b>73.0%</b>			
↗	↘	○新規設立NPO法人数	12法人	14法人	<b>11法人</b>			
↘	↗	○ボランティア登録団体数	616団体	537団体	<b>583団体</b>			
↗	↘	○地域づくりのリーダー育成につながるセミナー受講者数（合計）	21人	46人	<b>26人</b>			
		地域力アップセミナー 受講者数	21人	20人	<b>16人</b>			
		女性リーダー国内研修 受講者数	0人	13人	<b>0人</b>			
		生涯学習指導者育成セミナー 受講者数	コロナにより中止	13人	<b>10人</b>			
—	↗	○年長者大学校修了生の地域活動への参加状況	50.0%	48.4%	<b>50.0%</b>			
↗	↘	○生涯学習推進コーディネーター配置割合	46.2%	50.8%	<b>36.9%</b>			
↗	↗	○ボランティアコーディネーターによるコーディネートした件数	2,150件	2,690件	<b>4,386件</b>			
↘	↗	○新しく地域学校協働活動推進員（旧地域コーディネーター）になった人数	38人	10人	<b>23人</b>			

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	計 画		実 施					評 価 ・ 方 向 性				
					R4年度 予算額 (千円)	R4年度 決算額 (千円)	令和4年度実績・実施状況	活動指標	R3年度	R4年度	成果指標	R3年度	R4年度	R4年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
					実績値	実績値			実績値	実績値						
(1)「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成 ①地域ボランティアの発掘・育成	33	みんな de Bousai まちづくり人材育成事業	危機管理室 危機管理課	「目的」 大学と協働し、防災科目を新設するなど、市内の大学生を対象に、防災教育を実施し、学生自身が災害時に主体的に判断し行動できる知識を身につけ、地域コミュニティにおいて新たな地域防災の担い手として活動できる人材を育成する。	11,443の一部	5,191の一部	令和4年度の、北九州市立大学の防災科目履修者は130名。東京大学特任教授である片田敏孝氏を講師とした公開講座については3年ぶりに対面方式で実施した。	地域防災の新たな担い手を育成した人数	104人	130人	地域防災の新たな担い手を育成した人数	104人	130人	a:大変順調	大学のオンライン設備を活用するなど、前年度に引き続き防災科目履修者が130名と目標値である60名を超え達成したため。	今後も地域防災を担う新たな人材育成をするため、大学と協議し事業を継続していく。
	34	子育てネットワークの充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	「目的」 子育て中の親子を温かく迎え入れ、身近な相談相手になるとともに、親子同士をつなぎ、親子の成長を地域で見守る環境づくりのため、「子育てサポーター」を育成する。	598	466	登録者数 1,493人 うち子育てサポーターリーダー登録者数 208人	子育てサポーター養成講座の実施	実施	実施	子育てサポーター登録者数	1,508人	1,493人	b:順調	成果指標の「子育てサポーター登録者数」が前年度比で99%となったが、おおむね「順調」と判断した。 ※令和元年度より、子育てサポーターリーダーの登録については、2年に1度実施している。	子育てサポーター登録者数の増加及びフォローアップ研修の内容の充実を図る。 子育てサポーター養成後、実際の活動につながるよう、子育てサポーターが活躍できる講座を開講するなど、活動の充実を図る。
	35	ボランティア活動促進事業	保健福祉局 地域福祉推進課	「目的」 地域福祉の振興を図るため、北九州市社会福祉協議会が実施しているボランティアの育成、コーディネート、活動支援、関係機関との連携による情報収集・発信等のボランティア活動促進事業に対して補助している。	34,904	33,988	北九州市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターが実施する福祉教育事業やボランティアネットワーク事業に補助を行った。	ボランティア活動に関する相談件数	25,089件	36,705件	ボランティア登録団体数	537団体	583団体	b:順調	新型コロナウイルス感染症の影響により減少していたボランティア登録団体及びボランティア人口は徐々に回復傾向にあり、コロナ禍で継続していたボランティアの育成、活動支援、コーディネート等の効果があったため、新たなボランティア活動者の掘り起こしと考えると、「順調」と判断。	コロナ禍からの回復により、これから活発化していくと考えられるボランティアや市民の活動に対し、支援を継続していくとともに、地域の高齢化・担い手不足に対応していただくため、新たなボランティア活動者の掘り起こしを行う。
	36	社会福祉ボランティア大学校運営事業	保健福祉局 地域福祉推進課	「目的」 地域ニーズに対応した研修内容の充実、研修機会の拡大に努め、地域福祉やボランティア活動を担う人材の養成を行う。	31,381	31,380	社会福祉ボランティア大学校において、ボランティア・市民活動の担い手の養成や活動者の育成等のため、子育て支援ボランティア養成講座といった新たな福祉課題に対応するための講座や、活動者の資質向上を図るための取組を進めた。	ボランティア大学校の研修・講習の開催回数	42回	39回	ボランティア大学校の研修の受講者数(単年度)	1,781人	1,853人	b:順調	研修受講者をボランティア活動につなげる成果があり、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた受講者数も徐々に回復していることから、「順調」と判断。	従来のボランティア活動者に対する研修の実施だけでなく、ニーズや関心の高いテーマについて引き続き検討し、展開していく。
	37	年長者研修大学校(周望学舎・穴生学舎)(再掲)	保健福祉局 長寿社会対策課	「目的」 高齢者に対して教養、健康、レクリエーション等の研修の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくり、健康づくり及び社会活動の促進を図る。修了生の組織でボランティア活動を実施する。	144,718	141,143	「実績」 令和4年度受講者数：785人	年間コース実施数	30件	30件	総合的な満足度	96.0%	97.4%	b:順調	令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ禍以前に比べて受講者数が少ない状況ではあるが、「アンケートによる総合評価が良好であったため「順調」と判断した。	地域活動の拠点として、ボランティア活動の充実を図るなど、高齢者の生きがいづくりや健康づくりを促進し、地域活動を担う高齢者の人材育成を図る。
(2)地域リーダーの発掘・育成	38	NPO・市民活動促進事業	市民文化スポーツ局 市民活動推進課	「目的」 市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動サポートセンターを拠点として、NPO・市民活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、講座の開催、NPO法人設立・運営支援などを行う。	17,434	16,524	令和3年度以前に、緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、大きく減少したサポートセンターの利用者数は回復基調にあり、講座については、引き続きオンライン参加も可能なハイブリッド型として講座実施の維持に努めた。	講座実施数	18件	14件	新規設立NPO法人数(累計)	14法人	11法人	b:順調	令和3年度以前に、緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、大きく減少したサポートセンターの利用者数は回復基調にあり、講座実施等は概ね順調であり、新規設立NPO法人数も概ね達成しているため、「順調」と判断。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。
	39	地域力アップセミナー	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	「目的」 地域への帰属感や連帯感を共有でき、学んだ成果を地域で活かすことができる人材の育成を目的としており、受講生が自ら学習し、主体的に関わることで地域づくりを実践的に学ぶ講座となっている。	4,438の一部	4,013の一部	受講者数 16名 全10回(6/7~8/9)実施	受講者数	20人	16名	受講者の満足度	100.0%	100.0%	b:順調	募集定員30名に対し、受講者数は16名ではあるが、受講者の満足度は非常に高いため「順調」とする。	受講生の多くが市民センター職員であることから、幅広い方々に受講してもらえるよう、内容をより実践的なものに見直すとともに、募集の際は市民センターだけでなく、掲載を依頼するなど、広報についても検討する。
	40	健康づくり推進員養成・活動支援事業	保健福祉局 認知症支援・介護予防センター	「目的」 市民主体の健康づくりを推進するため、地域における健康づくり活動のリーダーの育成を行う。	4,024	3,915	予定通り、養成研修を実施することができた。また、地域での健康づくり推進員の活動を適宜支援することができた。	養成研修の受講者数	99人	28人	健康づくり推進員が関わる活動への参加者数の増加	158,938人	260,576人	b:順調	健康づくり推進員養成研修のほか、ステップアップ研修・スキルアップ研修を実施することができた。 また、地域での健康づくり・介護予防の取組みを継続することができている。	地域での健康づくり・介護予防活動が継続できるよう支援を行う。また、高血圧予防・フレイル予防について学習を続けながら、地域での普及啓発を行っていく。
	41	生涯学習指導者育成セミナー	市民文化スポーツ局 生涯学習課	「目的」 地域課題に対する地域福祉活動、まちづくり推進活動、子育て活動などに総合的に取り組める、生涯学習を推進するための人材育成を目指す。	750	750	市民の力を活用したまちづくりや生涯学習を推進するための人材の育成を目的に、高度かつ専門的な地域・技術の習得に向けた研修を行った。 令和4年度受講者数：10人	生涯学習指導者育成セミナーの実施	実施	実施	生涯学習指導者育成セミナー修了率	100.0%	100.0%	b:順調	令和3年度に引き続き、修了率は100%を達成したため、「順調」と判断した。	令和5年度はまちづくりに関する講義やフィールドワークに力を入れることで、講義内容のより一層の充実を図る。
	42	女性リーダー国内研修	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	「目的」 市内で活動している女性や学習グループのリーダー、今後リーダーとして活動しようとする意欲のある人を先進他都市等に派遣し、生涯学習活動に必要な専門的知識や技術についての学習を深め、地域活動の中心となる人材の育成及びスキルアップを図る。	516	0	応募者2名のため中止	国内研修応募者数	13名	2名	研修参加者の満足度	100.0%	—	c:やや遅れ	令和4年度は応募者が少なかったため中止となった。	今後は、受講条件(特定の講座受講が必須)の緩和や、現代の課題に即した内容の見直し、事業名の見直しなど幅広い受講者の獲得に向けた取り組みを行う。
43	住民主体の地域づくりの促進	市民文化スポーツ局 地域振興課	「目的」 地域コミュニティの重要性の理解促進を図ることを目的とした各種事業を通じて、住民主体の地域づくりを促進する。	2,480	1,199	地域づくり活動への参加者の割合 目標50% 実績29.2% 達成率58.4%	まちづくり専門家派遣事業を利用したまちづくり協議会の割合	71.4%	20.0%	地域づくり活動への参加者の割合	33.9%	29.2%	c:やや遅れ	コロナ禍により地域活動自体が減少し、地域活動への参加の機会が失われたことにより参加者の割合が減少したと考えられるため、「やや遅れ」と判断。	引き続き、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくり協議会や、地域で様々な取組を行う各種地域団体等に対し、各種支援事業などの地域ニーズに応じた施策を展開する。	

具体的な施策	番号	計 画				実 施						評 価 ・ 方 向 性					
		事務事業	所管課	概要(目的)	R4年度 予算額 (千円)	R4年度 決算額 (千円)	令和4年度実績・実施状況	活動指標		成果指標	R3年度		R4年度		R4年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
								R3年度 実績値	R4年度 実績値		R3年度 実績値	R4年度 実績値					
(2)「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成 ①「学び」と「活動」をコーディネートする人材の発掘・育成	44	社会教育・生涯学習関係職員研修の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的> 社会教育施設や市民センター、地域における学習・交流の機会の提供は、現代的・社会的課題の解決に向けてますます重要になってくる。今後これらの施設で、多様かつ有効な生涯学習事業等を推進することができるよう、関係する職員等の研修の充実を図る。	390	263	・令和4年度市民センター館長等研修開催回数:7回 ・令和4年度市民センター職員等研修会開催回数:2回	市民センター職員等研修会参加者数	117人	235人	参加者の満足度	97.0%	98.9%	a:大変順調	市民センター館長研修は、令和3年度に比べて、1回ほど多く研修を企画・実施することができた。 市民センター職員等研修会は、3年ぶりに対面方式で開催することができ、昨年度比で2倍の参加者を募ることができた。 よって、「大変順調」と判断した。	研修の中で、社会教育・生涯学習事業に関する事例発表や市民センターの館長同士、職員同士の情報交換を行う機会を設ける。	
	45	生涯学習推進コーディネーター配置事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的> 全市の生涯学習推進コーディネーターが一堂に会し、意見交換や情報交換を行い、交流を深めることで、より地域の学びと活動を活性化させる専門人材となるよう研修会を実施する。	6,686	2,848	研修実施 登録数 48人 市民センターへの配置割合 36.9%	生涯学習推進コーディネーター研修会の実施	100.0%	100.0%	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	50.8%	36.9%	c:やや遅れ	生涯学習推進コーディネーター配置の意義、効果に加え、人材の見つけ方などを市民センター館長に社会教育主事等が助言しながら、配置割合の増加に向け取り組む。 また、生涯学習推進コーディネーターを地域の人材として育成するための研修を実施し、研修で学んだ内容を実践につなげられるように支援を行う。	生涯学習推進コーディネーター配置の意義、効果に加え、人材の見つけ方などを市民センター館長に社会教育主事等が助言しながら、配置割合の増加に向け取り組む。 また、生涯学習推進コーディネーターを地域の人材として育成するための研修を実施し、研修で学んだ内容を実践につなげられるように支援を行う。	
	46	地域学校協働活動推進員(地域学校協働活動事業)	教育委員会 学校教育課	<<目的> 地域等と学校とのパイプ役として、学校の要望に応じて、スクールヘルパー等の人材を発掘し、「地域学校協働活動」を推進する。	48,900の一部	24,036の一部	地域学校共同活動推進員研修会を実施し活動内容の周知と促進を図った。新型コロナウイルス感染拡大による制限も緩和され、徐々に活動も再開してきた	学校支援地域本部設置 中学校区数	62校区	62校区	各実施校から得られた教育的効果(各実施校に対して行ったアンケートの結果「本事業が順調に進んだ」「ある程度うまくいった」と回答した学校数)	39校	48校	b:順調	各校区の報告書から、各校区によって特色ある取り組みを行っていることが伺えるため、順調とみなした。	来年度も地域学校協働活動推進員に対する研修を継続して実施するなどし、活動の充実に努めていく。	

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

1 全体評価

令和3年度	令和4年度	
B 順調	B 順調	<p>(1) 指標の「『住んでいる地域や北九州市が好き』と回答した児童生徒の割合」は前年度より増加し、約9割となっている。また、「『人の役に立つ人間になりたい』と思う児童生徒の割合」はほぼ全員が肯定しており、全国平均と同程度を維持している。</p> <p>(2) 「地域・子ども交流事業参加者数」は、コロナ禍により一旦急激に減少したが、順調に回復しており、R4年度は前年比170.7%となった。</p> <p>(3) しかし、「『活動を通じて、仲間や友人ができた』と回答した人の割合」は、R元年度の45.4%からR4年度は半分近い26.7%へと減少を続けており、「『地域の行事に参加する』という児童生徒の割合」は、毎年全国平均を下回っている。また、「『子育てに悩みや不安を感じる』と回答した保護者の割合」は、R元年度から増加し続けている。</p> <p>(4) モニタリング項目では、施策の柱1と同様に、スポーツやボランティアなどの活動、生涯学習関連施設の来館者が大きく増加しており、コロナ禍から回復してきている。</p> <p>(5) 事業評価表の個別事業では、地域・家庭・学校が連携して実施する事業は、概ね大変順調である。</p> <p>子どもたちのシビックプライドの高まり、生涯学習活動の順調な回復などから、総体的評価は「B 順調」とした。</p> <p>今後は、シビックプライドの高まりや地域・家庭・学校の連携事業の回復傾向が、地域活動等の「活動」につながり、人とのつながりに発展するよう事業を推進する。</p>

2 指標等

◎指標		指標		現状値	参考					目標	
R3 評価	R4 評価			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
C	D	「活動を通じて、仲間や友人ができた」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》		参考値			48.3%	51.2%	54.1%	57.1%	60%
				実績	45.4%	48.5%	37.7%	26.7%			
				達成率			78.1%	52.1%			
A	A	「住んでいる地域や北九州市が好き」と回答した児童生徒の割合 《北九州市学力状況調査》		参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上
				小5 実績	89.7%	91.1%	92.6%	93.9%			
				達成率			101.6%	101.4%			
				中2 参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
				中2 実績	87.3%	85.7%	88.7%	89.8%			
				達成率			103.5%	101.9%			
A	A	「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》		参考値			全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
				小6 実績	94.4%	—	95.4%	95.1%			
				小6 国(実績)	95.2%	—	95.5%	95.1%			
				達成率			99.9%	100.0%			
				中3 参考値			全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				中3 実績	94.5%	—	95.3%	94.9%			
				中3 国(実績)	94.3%	—	95.0%	95.0%			
				達成率			100.3%	99.9%			

R3 評価	R4 評価	指標	現状値		参考		目標				
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
A	B	「地域の行事に参加する」という児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	参考値			全国平均以上	<b>全国平均以上</b>	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
				実績	71.9%	—	59.7%	<b>50.5%</b>			
				国(実績)	68.0%	—	58.1%	<b>52.7%</b>			
				達成率			102.8%	<b>95.8%</b>			
			中3	参考値			全国平均以上	<b>全国平均以上</b>	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	59.2%	—	46.4%	<b>35.4%</b>			
				国(実績)	50.6%	—	43.7%	<b>40.0%</b>			
				達成率			106.2%	<b>88.5%</b>			
B	C	「子育てに関する悩みや不安を感じる」と回答した保護者の割合 《元気発進！子どもプラン(第3次計画)》点検・評価に伴う市民アンケート》	就学前児童	参考値			現状値以下	<b>現状値以下</b>	現状値以下	現状値以下	現状値以下
				実績	35.50%	40.9%	41.0%	<b>44.3%</b>			
				達成率			86.6%	<b>80.1%</b>			
			小学生	参考値			現状値以下	<b>現状値以下</b>	現状値以下	現状値以下	
				実績	41.6%	39.6%	44.4%	<b>47.6%</b>			
				達成率			93.7%	<b>87.4%</b>			
			中・高生	参考値			現状値以下	<b>現状値以下</b>	現状値以下	現状値以下	
				実績	40.2%	43.6%	43.5%	<b>53.8%</b>			
				達成率			92.4%	<b>74.7%</b>			
A	A	地域・子ども交流事業参加者数(人) 《所管課集計》	参考値			前年度以上	<b>前年度以上</b>	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
			実績	55,370	14,390	19,538	<b>33,361</b>				
			達成率			135.8%	<b>170.7%</b>				

A : 大変順調 (100%以上)    B : 順調 (90%以上)  
C : やや遅れ (70%以上)    D : 遅れ (70%未満)



◎モニタリング項目

全13項目中

↗ 7項目

↘ 0項目

➡ 1項目

— 5項目

R3 推移	R4 推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
—	—	○文化財に関する一般向け・子ども向け講座の開催回数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止			
—	—	○文化財に関する一般向け・子ども向け講座の参加人数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止			
—	—	○文化財に関する小学校等への出前講座開催回数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止			
—	—	○文化財に関する小学校等への出前参加人数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止			
↘	↗	○各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	428人	262人	1,867人			
↘	↗	○スポーツ観戦率	15.2%	14.9%	19.9%			
—	➡	○朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	調査中止	小6 : 92.0% 中3 : 90.9%	小6 : 91.3% 中3 : 89.7%			
—	↗	○家庭教育学級長向けアンケート満足度	調査中止	71.7%	91.0%			
↗	↗	○コミュニティ・スクール（学校運営協議会）委員に参画している地域関係者の人数	市型622人	市型846人 国型17人	市型982人 国型71人			
↗	↗	○地域学校協働活動事業の実施校において、教育的効果があったと回答した学校の数	33校	39校	48校			
↗	↗	○青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	2,329人	2,973人	3,852人			
—	—	○新科学館の入館者数	実績なし	実績なし	510,063人			
➡	↗	○地域・子ども交流事業開催回数	818回	818回	1,530回			

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

具体的な施策	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	計 画		令和4年度実績・実施状況	実 施		成 果 指 標		評 価 ・ 方 向 性		進捗状況の評価理由	今後の方向性	
					R4年度 予算額 (千円)	R4年度 決算額 (千円)		R3年度 実績値	R4年度 実績値	R3年度 実績値	R4年度 実績値	R4年度 進捗 状況				
(1)「学び」と「活動」による仲間づくり ①「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり	47	家庭教育学級の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<目的> 家庭の教育力の向上をめざし、保護者が家庭で子どもの教育をする心構えや、子どもとの接し方、教育上の留意点などを相互学習の中で主体的に学習する場として開設する。	3,362	1,679	市立幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校 199箇所 私立幼稚園、保育園 40箇所 直営保育所 4箇所 計243箇所	家庭教育学級の 実施	208回	243回	家庭教育学級 参加者数	11,118人	15,270人	a:大変 順調	前年度より実施箇所数と参加人数が増加し、成果指標である参加者数は、前年度比で137%の増加率であった。 以上のことから「大変順調」と判断。  家庭教育学級に参加できない保護者への取組として、引き続き、家庭教育力の向上や子育て支援につながる動画等をインターネットで配信し、情報提供を行う。	
	48	地域・子ども交流事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<目的> 地域の特色を活かし、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高めることを目的に家庭・地域・学校等が連携して、世代間交流や様々な体験活動の機会を提供する。	3,913	1,800	講座数 221講座 開催回数 1,530回 参加人数 33,361人				地域・子ども交流事業 開催回数	818回	1,530回	a:大変 順調	前年度より講座数と参加人数が増加し、成果指標である開催回数は、前年度比で187%の増加率であった。 以上のことから「大変順調」と判断。  引き続き、家庭・地域・学校等が連携した、世代間交流や様々な体験活動の機会を提供していく。 また、工夫した取り組み事例を市民センター館長に紹介することで、事業全体の充実を図る。	
(2)つながりから生まれる地域への愛着・誇り ①シビックプライドの醸成(地域文化、生涯スポーツ)	49	伝統文化の発掘・継承	市民文化スポーツ局 文化企画課	<目的> 指定無形民俗文化財保存団体の継承・保存活動を育成・支援する。	1,127 の一部	910	<目的> 指定無形民俗文化財保存団体の継承・保存活動を育成・支援する。 <実績> 指定無形民俗文化財保存団体(14団体)に対して補助金を交付した。	指定無形民俗文化財の 保護を目的とした保護 団体との協議	16回	16回	指定無形民俗文化財保 存支援団体数	13団体	14団体	b:順調	保存団体への周知と適切な協議を行った。 また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、当初計画どおりに事業を実施できず、申請金額を返還した団体もあったが、各団体とも令和5年度での実施の意欲は高く、文化財の保存伝承の成果はあったと考えられるため、「順調」と判断。  伝統文化の発掘や継承のため、今後も引き続き文化財保存団体の活動の強化に資する補助制度を継続していく。	
	50	文化財の保存・継承	市民文化スポーツ局 文化企画課	<目的> 文化財の指定等にかかる諮問機関の運営等、文化財の保護、適切な管理のための取組みを推進する。	6,400	1,491	<目的> 文化財の指定等にかかる諮問機関の運営等、文化財の保護、適切な管理のための取組みを推進する。 <実績> 文化財保護審議会の開催、指定文化財の保存修理事業への補助金の交付を実施。補助金の活用により永源寺の木造聖観音立像(市指定)保存修理を行った。	文化財指定及び、文化 財の保存修理に向けた 調査・協議	実施	実施	文化財保護審議会の開 催	0回	1回	b:順調	国・県と連携して適切に活動した。 国庫補助事業の不採択により事業が実施できない団体があつたが、今後も取組みを進めていくことから、「順調」と判断。  文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を実施し、市内の文化財を保護・活用していく。	
	51	博物館セカンドスクール事業	市民文化スポーツ局 自然史・歴史博物館	<目的> いのちのたび博物館を「第2の学校(教室)」と位置づけ、博物館への誘致事業・学校教育支援事業・家庭教育支援事業の3つの柱を軸に、学校教育現場と博物館の結びつきの強化を図る。	1,143	1,186	県外の旅行社を訪問するなど、積極的な誘致活動を行った結果、学校団体誘致数が大幅に増加した。 コロナ禍で行っていた入館者等の制限緩和により学校関係入館者が大幅に増加した。 記念イベントの実施や他団体のイベントに参加するなど広報活動を行った。 オンラインを活用した学校教育との連携事業を実施した。	学校団体 誘致活動回数	85回	107回	学校団体誘致数	379団体	707団体	a:大変 順調	積極的な誘致活動を行うとともに、コロナ禍に伴う入館者等の制限緩和により、学校団体誘致数、学校関係入館者数ともに著しく回復・増加したため。 また、オンラインを活用した学校教育との連携事業の実施や広報に資するイベント実施をすることで集客・誘致に資することができたため。  オンラインを活用し学校教育との関連を深め、より一層の支援の推進を図る。 イベント等の実施や研修対象の拡充等の集客・誘致に資する活動の充実を図る。 展示リニューアルや指導要領改訂に伴った博物館利用の手引きの更新を行う。	
(続き) ①シビックプライドの醸成(地域文化、生涯スポーツ)	52	生涯スポーツ振興事業(旧地域スポーツ振興事業)	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	<目的> 各区における地域スポーツの普及振興を図るため、ニュースポーツ用具の整備及び各種交流大会を実施する。	16,506	14,962	<実績> 7区で実施。全26行事。 新型コロナウイルス感染症の影響等で中止となった事業あり	各区におけるスポーツ 行事の開催数 (定期的な開催)	3回	26回	各区におけるニュー スポーツ及びファミリ ー スポーツ大会の 参加人数	262人	1,867人	c:やや 遅れ	令和3年度と比較すると、開催行事数・参加者数ともに回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった行事もあり、従来どおりまでは回復していないため。  各区における地域スポーツの普及振興を図るため、ニュースポーツ用具の整備及び各種交流大会を実施する。	
	53	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	<目的> 子どもたちをはじめ地域の住民が誰でも、どこでも、いつでもスポーツを楽しむことができるよう、総合型スポーツクラブへの育成・支援を行う。	2,600	2,600	スポーツファンアジア、各区のクラブでの教室開催	交流行事や勉強会の 定期的な開催	一部 開催	一部 開催	総合型地域スポーツ クラブの会員数	1,830人	1,718人	c:やや 遅れ	会員数は減少しているが、引き続き連絡協議会の開催やスポーツファンアジアの開催を行っていき、目標に及ばずとも達成傾向にあるため。  クラブの質を高め、指導者や運営に携わる人材育成に努めるとともに、クラブ間交流事業を実施するなど、会員増加につながる効果的な事業の実施を検討していく。	
	54	北九州マラソン開催事業	市民文化スポーツ局 国際スポーツ大会 推進室	<目的> スポーツの振興やまちのにぎわいづくりを図るため、1万人規模のマラソン大会を開催する。また、全国から参加するランナー等への食のおもてなしやコース沿いに位置する観光資源を通して、本市の魅力やPRし、シビックプライドの醸成を図る。	88,543	88,303	令和4年度は、コロナの影響による2回の中止を経て3大会ぶりに開催した。 大会の開催にあたり、ランナーの安全・安心を確保するため、ワクチン・検査パッケージを実施したり、関連イベント及び給食の提供に一定の制限を設けたりするなど、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底した。	市民のスポーツ・ 健康に対する 意識の向上	—	継続的に 実施	インターネットでの マラソン大会全国 評価ランキング (参加者7,000人以上 の大会を対象)	—	上位 10位 圏外	b:順調	コロナ禍においても安全に大会運営ができたこと、また、経済波及効果は約9億8千万円と過去の大会と大差ない効果を得られたことから、一定の評価ができるものと考えられており、「順調」と判断。  引き続き、安全・安心な実施を目指すとともに、積極的な広報を行い、認知度の向上を図る。	
	55	ホームタウン推進事業	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	<目的> 本市をホームタウン・準ホームタウンとする、トップスポーツチーム等の市民観戦事業や体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。	68,000 の一部	63,729	<目的> 本市をホームタウン・準ホームタウンとする、プロスポーツの市民観戦事業や体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。 <実績> スポーツ観戦率：19.9%	ギラヴァンツ北九州等 のホームゲームの 招待事業の実施	継続的に 実施	継続的に 実施	スポーツ観戦率	14.9%	19.9%	c:やや 遅れ	本市のシンボルチームであるギラヴァンツ北九州の平均入場者数は所属するJ3リーグで18チーム中4位と好調であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、親子招待事業等による観戦者数や、スポーツ観戦率が目標に届かなかったことから、「やや遅れ」と判断。	

具体的な施策	番号	計 画				実 施				評 価 ・ 方 向 性						
		事務事業	所管課	概要(目的)	R4年度 予算額 (千円)	R4年度 決算額 (千円)	令和4年度実績・実施状況	活動指標	R3年度	R4年度	成果指標	R3年度	R4年度	R4年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
									実績値	実績値		実績値	実績値			
(3)学校と家庭・地域が つながる教育力の 向上	①家庭教育支援の 充実	56 家庭教育学級の充実(再 掲)	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 家庭の教育力の向上をめざし、保護者が家庭 で子どもの教育をする心構えや、子どもとの接 し方、教育上の留意点などを相互学習の中で 主体的に学習する場として開設する。	3,362	1,679	市立幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校 199箇所 私立幼稚園、保育園 40箇所 直営保育所 4箇所 計243箇所	家庭教育学級の 実施	208回	243回	家庭教育学級 参加者数	11,118人	15,270人	a:大変 順調	前年度より実施箇所数と参加人数が増加 し、成果指標である参加者数は、前年度比 で137%の増加率であった。 以上のことから「大変順調」と判断。	子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化 している中で、家庭教育を充実させるため、 市民センターが主体となって家庭教育学級 を実施・運営していく方法等について、関係 者から意見を聞きながら、引き続き検討して いく。 家庭教育学級に参加できない保護者への 取組として、引き続き、家庭教育力の向上 や子育て支援につながる動画をインター ネットで配信し、情報提供を行う。
		57 親子アップ情報発信	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 核家族化や共働き世帯など、子どもや家庭を 取り巻く環境の変化に合わせて、いつでもどこ でも家庭教育の役立つ情報が得られるよう、子 育て支援につながる情報提供を行う。	1,190	545	アニメーション新作配信 1本 PRチラシ作成 YouTube広告				アクセス件数	10,355件	8,032件	c:やや 遅れ	前年度比77.5%のアクセス件数であった ので「やや遅れ」と判断。	新たなテーマを追加し、家庭教育力の更 なる向上を図る。 家庭などに課題を抱え、子育て支援が必要 なより多くの保護者へ情報が届くよう、P R方法に力をいれる。
②家庭・地域・学校 の連携促進	②家庭・地域・学校 の連携促進	58 コミュニティ・スクール事業	教育委員会 学校教育課	《目的》 学校運営及び学校運営に必要な支援に関し て協議する「学校運営協議会」を設置、地域住 民が学校運営への参画を促進し、学校と地域と の連携を促進し、「地域とともにある学校づくり」 を進める。	48,900	24,036	令和4年度より、13校で国型コミュニティ・ス クールを実施し、その他の学校では全校で市型コ ミュニティ・スクールを実施した。	学校運営協議会の設置 数(市型、国型)	市型 154校 国型 3校	市型 188校 国型 13校			b:順調	国型コミュニティ・スクールを拡大し、その 他の学校では全校で市型コミュニティ・ス クールを実施できたため、順調とみなした。	次年度も継続して国型のコミュニティ・ス クールの検証を行い、市型コミュニティ・ス クールを順次国型に移行していく。	
		59 地域で育もう「未来の種」 事業 ～市民太陽光発電所・市 民還元事業～	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 地域づくりの未来の担い手である子どもたち の健全な発達・育成に向けて、市民センターが 中心となって、まちづくり協議会などの地域団 体、子育て支援団体、NPO、企業などと協働 で、世代間交流・体験活動を実施する。	3,000	2,408	実施館 20館 参加人数 3,579人(延べ数)				参加者数	3,492人	3,579人	b:順調	前年度より実施館数が増加し、成果指標 である参加者数は、前年度比で102%の増 加率であった。 以上のことから「順調」と判断。	市民センターを主体として、地域全体で子 どもたちの健全な発達・育成を促す講座や 活動に取り組んでいるが、高齢化等により地 域だけで継続的な活動を行うことが難しく なっている。そのため、子育て支援団体、 NPO法人、企業などのノウハウを活用し、ま た、今までにない新たな発想を取り入れ、よ り充実した世代間交流や体験活動を実施す る。
③地域における子ど もたちの発達・育成 を促す環境づくりと 体験活動の推進	③地域における子ど もたちの発達・育成 を促す環境づくりと 体験活動の推進	60 地域学校協働活動事業	教育委員会 学校教育課	《目的》 多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画 し、また、活動を通じて地域社会全体の教育力 の向上を図り、地域全体で子どもたちの成長を 支え、地域を創生する活動を推進する。	48,900 の一部	24,036 の一部	地域学校共同活動推進員研修会を実施し活動 内容の周知と促進を図った。新型コロナウイルス 感染拡大による制限も緩和され、徐々に活動も 再開してきた	学校支援地域本部設置 中学校区数	62校区	62校区	各実施校から得られた 教育的効果(各実施校 に対して行ったアンケ ートの結果「本事業が順 調に進んだ」「ある程度 うまくいった」と回答した 学校数)	39校	48校	b:順調	各校区の報告書から、各校区によって特 色ある取り組みを行っていることが伺えるた め、順調とみなした。	来年度も地域学校協働活動推進員に対し ての研修を継続して実施するなどし、活動 の充実にも努めていく。
		61 地域・子ども交流事業(再 掲)	市民文化スポーツ局 生涯学習課	《目的》 地域の特色を活かし、地域ぐるみで子ども を見守り育てる意識を高めることを目的に家庭・ 地域・学校等が連携して、世代間交流や様々な 体験活動の機会を提供する。	3,913	1,800	講座数 221講座 開催回数 1,530回 参加人数 33,361人				地域・子ども交流事業 開催回数	818回	1,530回	a:大変 順調	前年度より講座数と参加人数が増加し、 成果指標である開催回数は、前年度比で 187%の増加率であった。 以上のことから「大変順調」と判断。	引き続き、家庭・地域・学校等が連携し た、世代間交流や様々な体験活動の機会 等を提供していく。 また、工夫した取り組み事例を市民セン ター館長に紹介することで、事業全体の充 実を図る。
		62 青少年ボランティアステ ーション推進事業	子ども家庭局 青少年課	《目的》 青少年の成長に欠かすことのできない様々な 体験活動等を通じ、青少年が社会の構成員と して規範意識や社会性、協調性等を身に付け ることができるよう、青少年ボランティアステ ーションを拠点に、青少年の体験活動を支援、促進 する。	1,523	1,357	コロナ禍の収束傾向により、様々なイベントが 復活してきたため、活動数も増加傾向にある。 ホームページを活用し、ボランティア募集情報や 活動実施状況を発信することにより、青少年に様 々な情報を提示してきたが、まだ青少年への認知 度が十分とは言えない。 また、様々な機会を利用してボランティアステ ーションの活動内容をPRし募集依頼の増加を図 ることで、幅広い内容のボランティア活動を介 して、北九州市の青少年のより豊かな人間性を 育てていくことを目指してきた。	青少年ボランティアス テーションにおけるボ ランティア体験活動者数	312人	85人	青少年ボランティアス テーションにおけるボ ランティア体験活動者数	2,973人	3,852人	a:大変 順調	コロナ禍の収束傾向も追い風になり、清掃 活動など屋外の活動を中心に約4千人に対 しボランティア体験活動を提供できた。 また、ホームページの充実や、メール受付 フォームの活用による申請の簡略化、24時 間化により申請しやすくなったため、ボラ ンティア活動へのリピート率が高くなっている。	コロナの5類化により、イベントなどのさら なる活性化が予想される。本ステーションと しては、ホームページを中心として青少年の 積極的な参加に結び付け働きかけを随時行 い、健全な青少年育成を目指していきたい。